

## 語る女性史『横浜に生きる女性たちの声の記録』

横浜に長く暮らしさまざまな分野で活躍してきた女性たちの足跡の記録——それが『横浜に生きる女性たちの声の記録』です。

92歳から65歳の大先輩の女性たちの肉声を通して、かくれた史実を知り、見遁しておいた大切な歴史のポイントを確認してください。

## 横浜のまち・風土・女性たちの歩み

横浜女性フォーラムの情報ライブラリには、女性問題に関する幅広い分野の資料が並んでいます。特に図書の中では女性の生き方や女性史に関するもののが多く、資料数も多くなっています。

戦後50年にあたる昨年、情報ライブラリでは、横浜の女性史の資料を積極的に収集するため、女性史の研究と資料の収集にたずさわる市民の女性たちから意見をいただき検討を重ねました。その結果、横浜の地域性と独自性を生かした市民の参加による女性の“声”語りの記録を制作して、市民の皆さんに広くご利用いただけるようにすることが決まりました。

そして生まれたのが、市民の女性グループによる「横浜に生きる女性たちの声を記録する会」です。会の代表を女性史研究者で国立国会図書館に長く勤務されていた山口美代子さんにお願いし、女性たちによる女性たちの“声”的記録作業が始まりました。横浜の風土のなかで生きてこられた経験も活動分野も違う女性たちに、それまでの歩みを振り返って語っていただき、その声をテープに保存する試みです。まず昨年は生野文子さんはじめの方々からお話を伺い、引き続き、今年度は日野綾子さん(捜真学院長)ほか4人の方々の記録を予定しています。5月には、昨年の記録を冊子にまとめた『横浜に生きる女性たちの声の記録』第1集が完成。時間をさせて快く協力してくださった皆さんに心から感謝し、内容の一部を紹介します。

### 山口美代子さんからのメッセージ



本田玉江さん

1925年中区生まれ。  
三吉演芸場の経営者  
として横浜下町の大衆演芸を支える。



「声の記録」は地域女性史の一端を担うものとして位置づけられてよいと思ひます。ことに「語る人物女性史」として、単に知名度が高いというのでなく、横浜に生き、住み、働くという地域に根ざした女性たちの声の記録です。今後は横浜で長く暮らす外国人女性もと考えています。

この記録が、その時代に何があって何が問題だったのかを女性の立場で語る本音の記録として、いくらかでも現代史の隙間を埋め、次代に繋ぐ糧になればと思っています。

**生野文子さん**  
1903年戸塚区生まれ。  
女性の社会進出の先駆者として、社会福祉、女性関係団体のリーダーなど多くの公職に就く。「最初の投票(婦人参政権の行使)は、本当にと思いましたけれど、どうれしかったです。権利については同じだと思うわけです。当時、女性が責任のある地位につくことでは、つらい思いをしましたね。辞退すれば弱みにながりますから、難しいところで…。これからは婦人会は目的をはっきりさせて取り組んでほしいと思います」



歌川民子さん

1916年中区生まれ。  
戦後まもなく料理店を開業、現在は割烹「宇多がわ」女将。曾祖父はイギリス人、曾祖母は浮世絵師歌川国鶴の長女。



松本喜美子さん

1908年千葉県生まれ。  
戦前戦後の教師生活を経て現在は「愛の森学園」理事。

**常盤刀洋子さん**  
1930年神奈川区生まれ。報道写真家。戦後の混亂期、横浜の赤線地帯の写真を撮り続け、社会派写真家として脚光を浴びる。



「私は前から、底辺にいる女人、なかなか這い上がれない女人の人には出会うけどした人を題材に選ぶのは好きではなくて…。私は報道写真家で、今日的なものを写すというのが報道写真家です。…でも社会派といわれる写真を撮った土壤は、やはり、私そのものだったかもわかりませんね」

テープは横浜女性フォーラム情報ライブラリに、冊子は横浜女性フォーラム、フォーラムよこはま情報ライブラリにあります。お問い合わせは館外貸出ができます。( )内は請求番号です。

#### ●テープ

生野文子 (1256~1257)  
歌川民子 (1258)

本田玉江 (1259~1260)  
常盤刀洋子 (1261~1262)

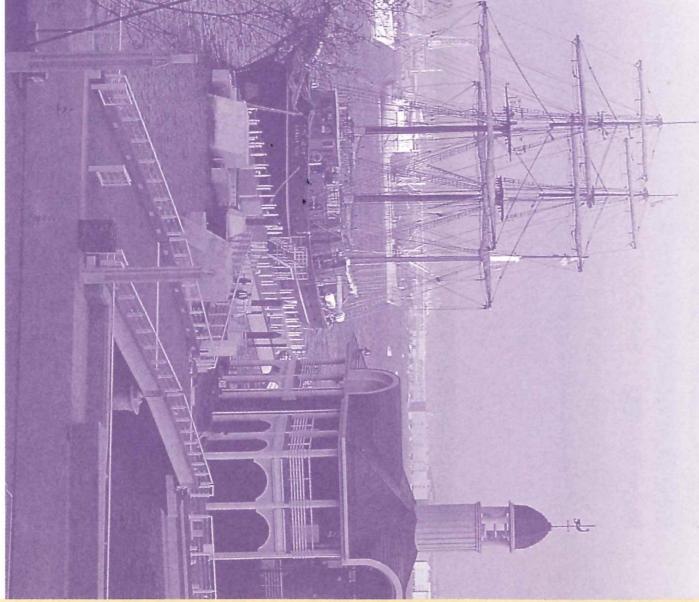
松本喜美子 (1263~1264)

●冊子  
『横浜に生きる女性たちの声の記録』第1集 (GA2523)

冊子の残部がありますので、ご希望の方には美費(500円)でお受けします。電話または来館で受付ます。郵送希望の場合には送料310円を添えて、横浜女性フォーラム情報ライブラリまでお申し込みください。

■問合せ先

電話:(862)5056



# FORUM

News Letter